

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（具体的な児童生徒像など）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して生活することのできる楽しい学校」「自分の力を活かし高め合える学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生命を尊重する心や思いやりの心を中心とした豊かな心，確かな学力の向上，健康の保持や体力増進などたくましく生きる人間力の育成，インクルーシブ教育を基にした特別支援教育の充実に努める。
- (2) I C T化を進めるとともに，児童の学びを支える着実で潤いのある学校環境づくりに努める。
- (3) 教職員としての使命と責務を自覚し，専門職として日々研鑽に努め，教員一人ひとりの指導力を高めるとともに，校内の研修会をより充実し，組織としてのチーム力の向上を図る。
- (4) 学校，地域，家庭との連携を密にして，地域の教育資源や教育力を活用しながら，開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 内業務の精選に努めながら，児童とのふれあいの時間を考慮し，勤務時間や行事等を意識した働き方を推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち，その実現に向けて，よく考え，自ら鍛え，思いやる心を磨きながら，生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育課程は，日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則等の諸法律，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の指導方針，宇都宮市教育委員会の指導方針，第 2 次宇都宮市学校教育スタンダード，学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 「1 学校教育目標」及び「3 学校経営の方針」「5 今年度の重点目標」に則り，地域や学校，児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して，知・徳・体の調和のとれた，心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7 特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込んだ新たな教育課程を編成する。
- (3) 学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに，教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成
- ・ 本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実

【学 習 指 導】

- 言語活動を充実させ対話的な活動へと発展させるコミュニケーション能力の育成
- 基本的な学習態度の徹底及び家庭学習の習慣化
- ICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着

【児 童 生 徒 指 導】

- 自他の人権を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成
- いじめの未然防止及び規範意識や思いやりの心の育成
- ・ それぞれの学級で一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 年間を通した体力向上プログラムの推進
- ・ 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指 す 児	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 魅力ある学習課題の設定やICTなどを効果的に活用した提示の仕方の工夫により、「分かる」「できる」授業の展開に努める。 ② 効果的なグループ学習を取り入れたり、話し合う必然性のあるテーマで考えを交流する場を設定したりすることで、児童が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら学びを深める機会を確保する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方策について研修する機会を充実させる。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は91%であり、指標の90%を上回った。 ① 教師は授業で日常的に使用している。 ② コロナウィルス対策を行う中で、できる限りの機会を設けることができた。さらに話し合う必然性のある授業展開を考える必要がある。 ③ 校長・副校長の講話や、研究授業などを行い、研修の時間は取れた。しかし、互いの授業を参観する時間的なゆとりを持つことが難しかった。 【次年度の方針】 ① 一人1台端末の導入に向けて、子どもたちが日常的に活用する授業事例を集めたり、授業実践を行ったりする。 ② 今回の感染症対策をもとに、来年度の状況に合わせて対話的な学びを進める。 ③ 一人1授業を行うとともに、日常的に互いの授業を見合う機会を設ける。その際、自習体制を整えたり、10分程度の短時間参観ができるようにしたりする。

児童の姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 教職員が日々の生活の中で善い行いやがんばっている児童を率先して見つけ、情報を共有し合う。また、掲示物のコメントや便りを通して児童のよさを発信し、自己肯定感を高める。 ③ 道徳科の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は88%であり、指標の85%を上回った。 ① 「きらりん」が児童の愛校心を育てる役割を果たし、協力して活動する様子が見られた。 ② 職員室に置かれている通称「ザクザク」を活用し、児童のよさの共有を図ることができたのは効果的であった。 ③ 年間計画を意識して教材研究を行うことができた。 【次年度の方針】 ①②③ 継続。今後も、「きらりん」を有効に活用して児童が協力し合う場を設けるとともに、全職員で児童のよさを認め、褒め、励ましていけるようにしていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合っ、自ら学級のきまりやマナーをつくるといった、主体的な取組を推進する。 ② 毎月「ふりかえりタイム」を設定し、きまりやマナーについて自己評価をしたり、朝の打合せ時に生活目標の達成状況等について話し合ったりする場を設け、全職員共通理解の下、継続的に指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は87%であり、指標の85%を上回った。 ① コロナ対策について、学級の実態に応じて話し合い、児童主体で学級のきまりを作った。 ② 毎月行うことで、自分の生活の実態について見つめる力が身に付いた。 【次年度の方針】 ① 継続。 ② 生活目標の達成状況について生活当番の教職員が振り返り、まとめたことをミライムの校内掲示板で共有する。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 85%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行うとともに、状況に応じた黙礼の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談会や学校・学年だより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えるとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は95%、保護者は88%で、いずれも指標の85%を上回った。 ① コロナ禍のため古里地域学校園や地域協議会と連携したあいさつ運動はできなかったが、感染対策として、児童を週3回に分散させてあいさつ運動を行えたのがよかった。 ② 振り返りカードを活用して、家庭にも啓発できたのが効果的だった。 【次年度の方針】 ①② 児童主体のあいさつ運動を推進し、継続的に指導していく。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 85%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ② 児童が認め合える場を意図的に設定するとともに、教職員も認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。 ③ 道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」などにおいて、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は87%であり、指標の85%を上回った。保護者の肯定的回答は75%であり、指標の85%を下回った。 ①②③ 各クラスの活動において、実態に応じた目標を設定させたり、ねらいを明確にした道徳の授業を行ったりし、児童の自己肯定感を高めることができるようにした。 【次年度の方針】 ①②③ 継続。目標をもって取り組ませながら、道徳科においては、内容項目に応じた授業を推進する。学年だよりや、学校だより、ホームページ等で、児童の頑張る様子を知らせる。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →保護者 90%以上	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導する。 ② 規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム、動画等の利用時間、睡眠時間等について日常的に指導する。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危機を予測し、自らの命を守る判断力を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は92%であり、指標の90%を上回ったものの、昨年より3ポイント減少した。 ① 保健だより、食育だより等を通じて家庭と連携を図ったことが効果的だった。 ② 高学年になるにつれ利用時間が伸び、生活の乱れもある。今後も、家庭と共通理解を図りながら指導を進めていく必要がある。 ③ 避難訓練等の際に発達の段階に応じて、訓練の意義を伝えることによって、児童の判断力も高まった。 【次年度の方針】 ①③ 継続。 ② 利用時間が長い様子が見られる。家庭を巻き込んだ指導が必要。高学年を対象とした業者による講習会を家庭も巻き込んで行う。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 85%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。【A5①再掲】 ② キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は87%であり、指標の85%を上回った。保護者の肯定的回答は75%であり、指標の85%を下回った。 ① 児童はコロナ禍の制限のある日々の中でも、目標に向かって努力することができた。 ② キャリアパスポートの活用が初年度のため十分ではなかった。 【次年度の方針】 ①② 継続。キャリアパスポートを活用して、夢や希望・目標について家庭でも話題作りができるようにする。

A 8 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →教職員 90%以上	① 外国語科及び外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、気持ちや考えを表出し合えるようにする。 ② 外国語科及び外国語活動の授業において、ALTと連携した効果的なT.T授業やICTの活用に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は84%であり、指標の90%を下回った。 ① 外国語の観点別評価への取組が浅く、教科書主体になってしまい、必然性をもった授業展開が不十分だった。 ② 授業の目的に照らすと、児童よりも教師が活用する場面が効果的で、教師はデジタル教科書を十分に活用していた。 【次年度の方針】 ① 授業の中でポイントを絞って英語を使う必然をもたせる。 ② HRTが授業展開を考えてALTとの打ち合わせを円滑に行う。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 →児童 80%以上	① 宇都宮学との関連を図り、社会科における市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等の充実に努める。 ② 教職員自ら、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等についての理解を深めるよう努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度より4ポイント減少して78%であり、指標の80%を下回った。 ① 総合的な学習の時間では「宇都宮学」も始まり、子どもたちが宇都宮のよさに気が付いたことにより、自己評価が厳しくなったものと考えられる。 【次年度の方針】 ① 図書室に宇都宮の歴史や文化を知ることができるコーナーを作るなどして、日常的に宇都宮のよさに触れることができるようにする。 ② 職員研修の機会を設ける。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① ICT機器や図書資料を活用した授業を意図的、計画的に行い、児童が必要感をもってそれらを活用できるようにする。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は84%であり、指標の85%を下回ったが、昨年度より7ポイント増加した。 ① 十分に活用できた。 ② 図書館司書を中心に、十分資料の整備充実が図られていた。 ③ 累積すると意欲につながるが、機会を設けるのが難しかった。 【次年度の方針】 ①② 継続。 ③ 読書マラソンについて、継続して取り組める工夫が必要。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 道徳科の授業において、日常生活との関連を図ったり、体験的活動を取り入れたりすることで、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 【A2②再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。【A2③再掲】 ③ 生活科や総合的な学習の時間等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設ける。その際、感染症防止対策に努める。	B	【達成状況】児童の肯定的回答は88%であり、指標の85%を上回った。 ①② 実施した。 ③ 生活科の昔遊びの高齢者とのふれあいから、高齢者の技術を見て尊敬の気持ちが強まった。 【次年度の方針】 ①② 継続。 ③ 感染症防止対策に努めながら、高齢者と一緒に遊んだり、高齢者から教わったりするなど、交流する機会を意図的に設ける。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 生活科や総合的な学習の時間において、SDGsを意識した授業に努める。 ② 東日本大震災をはじめとする災害に関する内容を授業に取り入れ、防災への意識を高める。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 【A2②再掲】	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は87%であり、指標の85%を上回った。 ① 社会的にSDGsが浸透してきたこともあり、教師が意識して授業で触れることができた。 ② 理科や社会の授業などで児童の関心を高めることができた。 【次年度の方針】 ①②③ 継続。 ① SDGsについて、本校職員の先進的な取組のもとに、職員研修等で意識の向上を図る。
B1 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自のアンケート「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 学級において、日常の場面を捉えて協力することの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。 【A2①再掲】	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は94%であり、指標の90%を上回った。 ① 各学級の道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導の充実を図ることができた。 ② コロナ渦で機会は減ってしまったが、制限のある中でも協力して活動を行えた。 【次年度の方針】 ①② 継続。 ② 児童会だより等で「きらりん」を取り上げ、有効に活用していけるようにする。また、子どもたちの自主性を尊重し、協力して活動できる場を意図的に設定する。

	B2 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】 独自のアンケート「私は、宿題や自主学習を計画的に行っている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は82%であり、指標の85%を下回った。保護者の肯定的回答も76%と、指標の80%を下回った。 ①②「家庭学習のすすめ」が形骸化している。 【次年度の方針】 ① 児童のノートを互いに閲覧したり教師が意図的に紹介したりして、よさを共有する。授業とつながる内容を家庭学習として投げかけていく。 ② 掲示してあると、保護者も共有することができる。
目 指	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 90%以上	① 特別な支援が必要な児童に関する情報交換を日常的に行うとともに、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心として、特別支援委員会やケース会議等において共通理解を図り、組織的な指導に努める。 ② 特別支援学級の児童や通級児童等について、個別の支援計画を作成し、合理的な配慮を伴う指導に努める。 ③ 全児童に対して全教職員が共感的理解に基づく指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、指標の90%を上回った。 ① ミライムのメッセージ機能を活用して情報をすぐに共有し対応に努めた。 ②③ 実施した。 【次年度の方針】 ①② 継続 ③ 一方的な指導に陥らず、全教職員が共感的理解に基づく指導ができるよう、校内研修等を通して指導力向上に努める。
す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会、帰りの会、道徳科の授業、学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がける。 ② いじめに関するアンケート調査、「なんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議やブロック会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、緊急時にはいじめ対策委員会を実施する等組織的に対応する。 ③ 全教職員が自らの人権感覚の醸成に努めるとともに、それぞれの立場でいじめの認知、対応に積極的に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は99%であり、指標の90%を上回った。保護者の肯定的回答は80%であり、指標の90%を下回ったものの、昨年度より2ポイント増加した。 ①③ 全職員が意識して指導を行った。 ② コロナ禍のためいじめゼロ集会は実施できなかったが、毎月行っているアンケートなどを活用し、早期発見に努めることができた。 【次年度の方針】 ① 今後も全教職員が足並みを揃えて「いじめは絶対に許さない」という姿勢で指導する。教師自ら人権感覚の醸成に努める。各自が「正しい」と思っている指導について、本当に適切な指導なのかを子どもの立場から見直し、厳しい叱責に頼らない指導を実現する。 ② 全教職員が積極的にいじめ認知に努め、組織的に対応する。また、学級懇談会や便りを通していじめ対策の取組を知らせ、家庭とも連携を図っていく。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う場をつくってくれている。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 児童が認め合える場を意図的に設定するとともに、教職員も認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。【A5②再掲】 ② 「なんでも相談」、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見に努めるとともに、不登校の兆候が見られる児童に関して日常的に情報交換を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は95%であり、指標の85%を上回った。 ① 職員室に置かれている通称「ザクザク」を活用し、児童のよさの共有を図ることができたのは効果的であった ② 毎月行っているアンケートやQ-Uの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努め、組織的に対応した。Q-Uの結果に基づいた職員研修を実施することもできた。 【次年度の方針】 ①② 継続。さらに、給食時の校内放送で、児童のよさを発信するコーナーを設け、全校生で共有できるようにする。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 90%以上	① 外国人児童や外国で生まれ育った児童について全教職員で共通理解を図り、実態に応じた指導を行うとともに、児童が互いの違いを認め合いながら生活できるような日常的な指導に努める。 ② 日本語指導ボランティアの活用や、かがやきルームでの対応を行うとともに、家庭との連携に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、指標の90%を上回った。 ①② 本人の困り感に寄り添い、個別指導の充実を図った。 【次年度の方針】 ①② 継続。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① 学校行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、児童の話をよく聞いたり児童に声をかけたりするなど、認め、励ます指導に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は91%、保護者は92%であり、いずれも指標の90%を上回った。 ①② 集会活動を行うことは難しかったが、制限された中においても工夫して活動することができた。 【次年度の方針】 ① 継続。必要な教育活動を精選しながら自己肯定感が高まるよう内容を工夫していく。 ② 業務改善を行い、児童の話を傾けたり、児童の様子を把握する時間や精神的余裕を確保する。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 85%以上	① 個の特性や能力に応じた支援を工夫するとともに、T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。 ② ICT等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等に配慮した授業展開を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は95%であり、指標の90%を上回った。保護者の肯定的回答は82%であり、指標の85%を下回った。 ① 保護者と児童との間でポイントに隔たりがあるのは、休校中の課題時間する捉えがあると考えられる。保護者は休校中の課題が分かりづらかったと感じ、児童は学校再開後の授業に充実感をもっているのではないだろうか。 A ② 学年に応じた活用を取り入れている。学年差が出ないように担任間で相談しながら配慮している。操作上の問題もあり、タッチペンの方が慣れているが、キーボード入力が難しい。 【次年度の方針】 ① 継続。 ② 一人1台の端末を活用し、児童が操作を学ぶ機会を意図的に設ける。ICT活用に教師間の差が出ないように、研修や共通理解の場を設ける。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は89%であり、指標の85%を上回った。 ①② 協力して校務に取り組もうという意識が高まった。校務について話し合う時間の確保が難しかった。 【次年度の方針】 B ①② 継続。全職員で協力し、若手をサポートする体制づくりを行う。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化と適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理に努め、作業効率を上げる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度より3ポイント減少して81%であり、指標の85%を下回った。 ①②③ ミラタイムや共有フォルダの活用で効率化が図れた。総合訪問の時期（10月）に昨年度より残業時間が増えたが、11月以降は、残業時間が減っている。 【次年度の方針】 B ①②③ 継続。見通しをもった計画や優先順位を考えた仕事の進め方の意識づけを図っていく。働き方改革プロジェクトを継続して、改善を図っていく。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を行い、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、道徳科部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度より 20 ポイント減少して 71%であり、指標の 90%を下回った。保護者の肯定的回答は 83%であり、指標の 90%を下回った。 ①② 活動が制限され、できないことが多かった。中学校からの乗り入れ授業は効果的なので来年度は実施したい。小中一貫教育については、活動の内容を検討する必要がある。 【次年度の方針】 ①② 継続。乗り入れ授業の継続。研修について改善策を検討。計画があるからやるのではなく必要な連携に絞っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 85%以上 →地域住民 85%以上	① 地域協議会において、学校経営方針や課題となっている事案について積極的に説明し、地域住民の意見を反映させるとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。 ② 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を中心に見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。その際、感染症防止対策に努める。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 85%であり、指標の 85%に届いた。地域住民の肯定的回答は 100%であり、指標の 85%を上回った。 ①② コロナ禍により、紙面会議や制限を設けた活動であったが、工夫しながら行えた。 【次年度の方針】 ①②継続。毎年、必要な活動であるかの見直しを行いながら継続していく必要がある。活動について地域に知らせる工夫をする。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 85%以上 →地域住民 85%以上	① P T A、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画、実施し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。 ③ 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。 【A22②再掲】	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 85%であり、指標の 85%に届いた。地域住民の肯定的回答は 100%であり、指標の 85%を上回った。 ①②③ コロナ禍により回数は減ったが、工夫して活動できた。 【次年度の方針】 ①②③ 継続。例年通りにこだわらず、活動の内容や学習支援について検討しながら取り組んでいく。

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上 →保護者 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も環境美化に努める。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等を計画的に実施するとともに、危機管理マニュアルを整備し、災害や不審者侵入等の不測の事態への備え及び、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92%、保護者は 89%であり、いずれも指標の 85%を上回った。 ① 毎月適切に実施している。 ② 清掃分担の担当により統一がさられていない面もあった。 ③ 計画に沿って適切に実施してきた。感染症対策も、全職員共通理解のもと行われた。 【次年度の方針】 ① 継続。 ② 掃除時間や掃除の仕方など、共通認識のもと指導できるようにする。 ③ マニュアルの見直し、精選を行うとともに、共通理解を図る。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 児童用 PC や学習用ソフト等の整備に努めるとともに、それらの活用について必要に応じて研修の機会をもつ。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実を努める。 【A10②再掲】 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。 【A10③再掲】	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 84%であり、指標の 85%を下回ったが、昨年度より 7 ポイント増加した。 ① A18に同じ。 ② A10に同じ ③ A10に同じ 【次年度の方針】 ② 引き続き整備拡充に努める。 ③ 読書マラソンについて、継続して取り組める工夫が必要。
本校の特色・課題等	B3 教職員は、対話的な学びを目指した言語活動を充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組んでいる。 【数値指標】 独自のアンケート「教職員は、児童が主体的に友達と話し合ったり、自分の考えを表現したりしながら学びを深めているような授業づくりを行っている。」における肯定的回答 →教職員 80%以上 保護者 80%以上	① 児童の興味・関心を高めるような単元展開や学習課題を工夫したり、教科等の特性に応じ、単元や本時のねらい達成のための言語活動を設定したりする。 ② 自分の思いや考えを安心して表出できる学習集団の醸成に努める。 ③ 新学習指導要領で求める資質・能力育成のための授業改善について、積極的に情報収集したり、研鑽を積んだりする。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92%で指標の 80%を上回った。保護者の肯定的回答は 76%であり、指標の 80%を下回った。 ①②③ 職員研修をもとに、各教職員が授業力向上に努めたが、まだ十分とはいえない。 【次年度の方針】 ①② 授業でやっていることを懇談会などで保護者に発信できるとよい。また、来校できない時期だからこそ、ホームページに写真を載せるなど、積極的にアピールする。 ③ 今後も各自が積極的に情報を収集し、その資料を共有する。また、授業を通じた具体の姿で、「主体的・対話的で深い学び」について共有できるような職員研修を行う。職員研修の成果を日常の授業に生かすことができるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- A 4 あいさつについて良好な結果であった。今後も児童主体のあいさつ運動を推進しながら、家庭や地域とも連携して心地よいあいさつの行き交う環境づくりに努めていく。
- A 1 0・2 5 ICT 機器の活用に関する達成状況のポイントが向上した。来年度の一人1台の端末活用に向けて、教員が積極的に授業に活用してきた成果である。
- A 1 4 いじめ対応について、保護者の肯定的回答が目標に達しなかった。全教職員が足並みを揃えて「いじめは絶対に許さない」意識をもつとともに、教職員自ら、人権感覚の醸成に努め、厳しい叱責などに頼らない指導を実現する。
- B 1 「児童は、互いに協力して活動している。」の評価項目について達成状況が高かった。コロナ禍で活動が制限された中でも、子ども主体の行事の持ち方を工夫して行った成果である。
- B 3 「主体的・対話的な深い学び」に対する保護者のポイントが低かった。授業改善に向けて、職員研修を充実させるとともに、家庭に向けた積極的な情報発信も必要である。

7 学校関係者評価

- ・ コロナ禍で教育現場も例年以上に大変だと思うが、これからも児童の変化を見逃さず、教育目標の達成に取り組んでほしい。
- ・ コロナ感染対策に対する意識が高く、児童も全員マスクを着用しており素晴らしい。
- ・ 先生方が工夫して授業を行っており、児童も真剣に取り組んでいる。
- ・ 運動会の半日開催など学校行事を精選し、職員の業務量の軽減を図るべきだと思う。
- ・ 児童との接し方が雑な教員がいるのが気になる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学び合う子】

- ・ 進んで授業に取り組む態度が身に付いている。「分かりやすく丁寧な授業」に対する児童の肯定的回答の割合も高い。しかし「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善は十分とはいえない。子ども主体の授業づくりについて、教職員が研修を深める必要がある。
- 家庭学習について、地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」が定着しているが、個々の実態や興味関心に沿った自主学習については、個人差が大きい。子どもにとって魅力的な授業が自主学習に発展することを共通理解し、取り組んでいく。
- ・ ICT 機器や図書資料の活用について、肯定的な回答が増えた。来年度から導入される一人一台端末について、有効活用を図る。

【助け合う子】

- ・ コロナ禍で制限の多い学校生活の中でも、思いやりのある言動や協力的な行いが多く見られた。今後も、自主性を尊重した学級活動や児童会活動、縦割り班活動等の充実を図るとともに、一人一人を大切にした学級経営に努める。
- あいさつについての肯定的回答の割合が高い。本校独自のあいさつ運動（朝のあいさつ運動、あいさつ殿堂入り、運営委員による呼びかけなど）や、保護者も巻き込んだあいさつの啓発の成果と考えられる。
- ・ いじめ対策については、アンケート調査、「なんでも相談」、「いじめゼロ集会」、ケース会議、ブロック会議などにより未然防止、早期発見に努めた結果、概ね良好な結果となった。今後も、いじめは絶対に許されない行為であることを全教職員が足並みを揃えて指導するとともに、教職員自らの人権感覚の醸成に努める。

【鍛え合う子】

- ・ 夢や目標をもって、あきらめずに努力する心情や態度について概ね育っている。今後も、家庭と連携しながら認め励ます指導に努める。
- ・ 全校一丸となって感染症対策に取り組んだ結果、子どもたちの健康に対する意識が向上した。きまりを守る態度も概ね身に付いている。一方で、ゲーム機やスマホ等の望ましい利用について身に付いていない傾向がある。家庭と連携を図り、指導していく。

